

年間第 13 主日 6 月 26 日 分かち合い

ルカ 9-51～62

梅雨入りしたかと思えば、連日の猛暑。今度は、梅雨明け宣言のタイミングが難しいとか、予想を超える天気の変り変わりに振り回される日々が続きます。先週は、幼稚園の園庭清掃でお父さん方が大変な労働に汗をながしてください、木曜日にはプール開きもできました。

教会の典礼も、復活節後の三位一体、聖体の祝日と続き、ようやく年間の季節に入りました。今年は、C年で、福音はルカが読まれます。今日の朗読箇所は、「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた」、と緊迫感の溢れる言葉で始まります。ルカによれば、イエスの生涯は、ガリラヤに始まり、エルサレムで終る一つの旅。エルサレムに上ることは、いよいよイエスが生涯の最後に向かって旅立たれることを物語ります。

そうしたエルサレムへの旅の途中、イエスはユダヤ人が避けるサマリアの村を通ろうとして、先に弟子を送られます。イエスを歓迎しようとしないうサマリア人を、血気盛んなヤコブとヨハネは、かつて預言者エリヤがやったように、「天から火を降らせて、人々を焼き滅ぼして」てはどうか、と、恐ろしい提案をします。イエスは、すかさず彼らを戒めた、とルカは記します。

ユダヤ人は、サマリア人に対して、かなり高圧的態度を示しますが、ルカは、当時のユダヤ人には考えられないような、サマリア人に対するイエスの寛容な姿勢を、様々な箇所に記しています。重い皮膚病を癒していただき 10 人の中で、感謝に戻って来たたった一人のサマリア人の話し、有名な善いサマリア人のたとえ。ヨハネは、昼日中にサマリアの女と対話をされるイエスについて記します。イエスの復活後、エルサレムで迫害が起き、弟子たちの多くがサマリアへ逃げ、それが契機となって、サマリア人の中から改宗者が出たことが背景にあるのかもしれませんが。

その後、イエスは、自分に従って行こうとするもの、イエスの弟子になろうとするものに対して、厳しい言葉を浴びせます。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない」。イエスは、まさに、そのようなこの世での安住の場を持つことなく、父から与えられた使命に献身しておられたのです。そして、「父を葬りに行かせてください」とう者に、イエスは言われます、「死んでいる者たちに、自分の死者を葬らせなさい」と。そして、「家族にいとまごいに行かせてください」という者に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われます。第一朗読で読まれたエリシャの話とだいぶ違います。エリヤの後継者となるエリシャに対し、エリヤは母との別れを許しました。しかし、そのエリシャも、実は、エリヤの後を継ぐにあたって、自分にとって貴重な財産である一軀の牛を屠り、その装具を燃やして、肉を煮て人々に振る舞ったとあります。預言者エリヤに従い、仕えるために、それまでの生活と訣別し、生業の一切を放棄したことのしるしではないでしょうか。

イエスが従うもの、弟子になろうとするものに求められることは、生活を根本から転換することです。山上の説教で説かれるように、貧しさを大事にして生きる、人から受ける侮辱に耐える、神を何にも勝る宝と考えるだけでなく、隣人を自分のように愛するなど。そうした、生き方の根本を見直し、イエスが示される道を歩むことです。ある意味で価値観を180°転換させること、パウロが記すように、イエスを知ることの前に、それまで誇りに思っていたことを塵芥のように見なすこと、つまり、絶えざる回心が求められるのです。

ガラテヤの教会に宛てた手紙の中で、パウロは自由について語ります。当時の教会、パウロが始めた教会共同体の中には、ユダヤ教から改宗してキリスト者になったものが少なくなかったようです。パウロが、いくら口を酸っぱくして、イエスの救いが、律法の実行ではなく、イエスを信じる信仰によって得られることを強調しても、彼らの中には、昔から馴染んできた律法にこだわる人がいたようです。パウロは言います、「あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。」「奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。」古い律法の業でなく、「隣人を自分のように愛すること」、ひとえに「愛によって互いに仕え」合うこと、古い掟に縛られて生きることではなく、自由をもたらすイエスの霊、復活されたイエスの霊に従って歩むことなです。

こうした生き方を続け、イエスの弟子として生きるためには、エルサレムに向かって決意を固められたイエスのように、わたしたち一人一人も、自分を縛る多くのものから解放されて、イエスにのみ従う決意を日々新たにしなければなりません。主の日に教会に集まるわたしたち皆が、そうした思いを深くしながら、信仰から来る喜びを人々と分かち合うことができるよう祈りましょう。(S.T.)